

番号	2	事業名	急傾斜地崩壊対策		市町村名	駒ヶ根市		路河川名	(急)太田切	箇所名(ふりがな)	太田切(おたぎり)					
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	○当箇所は太田切川と天竜川の河岸段丘に位置し、最大高さ32m、最大勾配43°の急傾斜地である。 ○保全対象として人家33戸、障がい者利用施設が存在する。												②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)		評価
	○法面には、在来植物が侵入し、地域の景観に馴染んでいる。													B		
事業目的	○当該急傾斜地に対する対策により、人家33戸及び障がい者利用施設を保全し、民生の安定を図る。												③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)		評価
事業概要	当初工期	H23~H27	費用対効果(当初時)	8.43	事業費(千円)	財源内訳(千円)				○毎年、目視による施設の点検を実施している。 ○擁壁周辺の除草等は地域住民が実施している。		A				
	最終工期	H23~H27	費用対効果(評価時)	7.23	上段:当初/下段:最終()は国補事業分以内	国庫	その他	県債	一般財源	○斜面対策により、斜面崩壊、落石の危険が減少し、安心感が得られたなど住民から高い評価を得ている。(区長より)		A				
	当初計画内容(主な工種)	重力式擁壁工 L=450m H=3.0~5.0m 吹付法砕工 L=300m sl=5.0m			300,000 (285,000)	142,500	15,000	128,000	14,500	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価				
	最終事業実績(主な工種)	重力式擁壁工 L=463m H=3.2~5.1m 連続繊維補強土工 L=502m sl=0.2~8.5m A=2,850m ²			348,824 (331,383)	165,691	17,441	149,123	16,569	○工事完了後の環境変化についても、以前と変わらないとの意見が多い。		④地域住民等の評価				
事業期間の延長、短縮理由と分析	なし												改善措置の必要性	なし		
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	事業費の増加 ○詳細な測量や調査により急傾斜地崩壊対策に必要な施設延長、面積が増となったため。															
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)										評価					
	直接的効果 (定量的・定性的)	○人家、要配慮者利用施設を土砂災害から防止 ○対策工により、斜面崩壊、落石被害等は生じていない。また、令和2年度7月豪雨(連続雨量102mm)でも被害は発生していない。										A				
		間接的効果 (定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○施設整備により、地元住民や施設利用者が安心して生活できるようになっている。 ○重力式擁壁工の型枠に化粧型枠を採用することにより景観が良くなった。 ○事業説明会時に防災情報を住民へ提供し防災意識の向上が図られた。										今後の取り組み及び同種事業への活用と課題			
	【事業の必要性】 ○近年、集中豪雨による土砂災害が頻発する中、同事業の必要性は住民に認知され、ますます要望が強くなっている。 【ソフト対策の推進】 ○気候変動により激甚化する自然災害に対し、災害に強い地域づくりを推進するため、施設整備とあわせて、市町村と連携した警戒避難体制の構築などのハード・ソフト両面から土砂災害対策を進める必要がある。 【地元の合意形成・環境配慮】 ○対策施設は、保全対象人家の直近となるため、維持管理においては住民の協力が必要不可欠であり、事業計画の段階で地域と連携することが重要となる。また、対策施設完成後は地域の環境への影響が大きくなることから、環境について地域との意見交換が必要である。										(建設部) 公共事業評価委員会の意見	総合評価	A			
建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。										長野県公共事業評価委員会の意見	県の評価案	妥当				
											評価監視委員会意見	妥当				
											評価の決定	A				